

講演

日本の社会構造における歯科保険診療の存在意義
～令和8年度診療報酬改定の在り方と目指す方向～

小 野 清一郎

ICDフェロー

●抄 録●

平成28年度の診療報酬改定で将来の歯科治療の需要予測として「口腔機能の回復」が挙げられて以来、歯科保険医療では口腔機能の正常な発達と回復に注力されてきました。とりわけ前回の令和6年度診療報酬改定では非常に大きな制度の改定がなされ、昭和・平成の歯科医療とは全く異なるタイプの歯科医療提供体制が求められました。

そして今回、注目の令和8年度改定でも、やはり口腔機能の正常な発達と回復は大きな目玉として取り扱われています。さらに今回の改定では、口腔機能管理への対応だけでなく、歯周病についても重症化予防への対応がさらに推進されています。

そもそも皆保険制度は疾病保険であるため、疾病が生じて初めて財政出動が認められるはずですが、それがなぜ、「重症化予防」という予防医学の領域まで認められるようになったのでしょうか。

御存知のとおり、我が国の財政状況は非常に逼迫した状況ですが、それゆえに医療費全体の削減効果を高める歯科医療には、政府や国民の期待が日々膨らんでいます。そのような状況の中で今回の講演では、令和8年度診療報酬改定について口腔機能の管理を中心に、検証していきたいと思います。私たち歯科医療従事者が求められていることは、昨今の厚生労働省が目指す方向性に追従することです。その潮流に乗ることで、診療報酬改定の予算配分の恩恵を得ることができるともお伝えする予定ですが、問題はこの潮流に乗ることはすなわち、これまでの歯科医療を根底から覆すようなパラダイムシフトが求められるということです。そして次世代型の歯科医療提供体制への移行をいかに達成するかが、今後の医療機関の機能を決する分水嶺ということになります。今回はその辺りのポイントと、その対応について私なりにお話できればと思っています。

キーワード：2040年問題、地域包括ケアシステム、重症化予防、口腔機能管理、リハビリ・栄養管理・口腔管理

今回の講演では、日本の人口ピラミッドから2015年問題、2025年問題の論点を改めて整理した。また今後の人口動態の推移から将来の人口激減を予測し、将来の未曾有な労働力不足への懸念についてもお伝えする

とともに「2040年問題」について警鐘を鳴らした。また、国家の一般会計と公債発行額の推移から医療保険・介護保険のみならず、年金も含めた社会保障制度全般が、いかに現在の国家財政に対して大きな負荷を加担しているかをお示しした。これらの懸念については国においても共通の課題であり、今回の令和8年度改定では初めて「2040年問題」に言及がなされ、それを見据えた内容が保険診療に収載された。今後は歯科医療だけでなく、全国のあらゆるフィールドで予算不足と人手不足が顕著化していくことが予想される。

このような流れの中で、国がその打開策として掲げ



※冬期学会講師

(おの・せいいちろう)
医療法人ビクトリア会 理事長

る「地域包括ケアシステム」が皆保険制度の基軸とされてから既に久しい。今改定においても「地域包括ケアシステム」と「かかりつけ歯科医機能」の更なる強化を目指す施策が多重的かつ多面的に盛り込まれている。

一方、過去5回の診療報酬改定、すなわちこの10年間の経過を分析すると、歯科については新規の検査の収載とその適応症の拡大が推進されており、令和8年度改定においても新たな検査が追加された。またそれに伴い、歯科保険診療費の内訳では補綴関連の割合が低下しつつあり、その減少分はそっくりそのまま医学管理へ移行していることをお示しした。こうした傾向を捕捉するかのように、診療報酬改定では、毎度のよう「重症化予防」と「口腔機能管理」への対応を求めるような制度設計がなされてきたことも注目に値する。こうした昨今のトレンドを整理し、国が求める「重症化予防」と「口腔機能管理」への対応、そして

前回の令和6年度改定にて初めて提言された「リハビリ・栄養管理・口腔管理の一体的な医療提供体制」の構築についても講演内で紹介させていただいた。

最後のディスカッションでは、フロアーの参加者から逼迫する国家予算の状況下における診療報酬改定への小職の私見が尋ねられた。この疑問については、かねてから「選定療養」の拡充を訴えてきたことを回答させていただいたが、ありがたいことに質問者からも賛同が得られ、改めて歯科保険診療における将来的なビジョンが強化されたと感じている。

参考文献

- 1) 厚生労働省：令和6年（2024）人口動態統計（確定数）の概況
- 2) 財務省：一般会計税収、歳出総額及び公費発行額の推移
- 3) 社会保障審議会医療保険部会・社会保障審議会医療部会：令和8年度診療報酬改定の基本方針
- 4) 中央社会保険医療協議会：個別改定項目について（中医協 総－1 8.2.13）

The Significance of Dental Insurance-Covered Care in Japan's Social Structure —The Nature and Direction of the 2026 Medical Fee Revision—

Seiichiro ONO, D.D.S., F.I.C.D.

Medical Corporation Victoria-Kai

Since “restoration of oral function” was cited as a projected future demand for dental treatment in the 2016 revision of medical fees, the Japanese national dental insurance system has focused on the normal development and restoration of oral function. In particular, the previous 2024 revision of medical fees introduced significant systemic changes, requiring a dental care delivery system that is entirely different from the models of the Showa and Heisei eras.

Now, in the highly anticipated FY2026 revision, the normal development and restoration of oral function are once again being treated as a major focal point. Furthermore, this revision not only addresses oral function management but also further promotes measures to prevent the progression of periodontal disease to severe stages.

To begin with, since the universal health insurance system is a sickness insurance system, financial support should only be approved once a disease has actually occurred. So why has it come to be recognized even in the realm of preventive medicine, specifically “prevention of disease progression” ?

As you know, Japan's fiscal situation is extremely strained; consequently, the government and the public are placing ever-greater expectations on dental care to help reduce overall medical costs. Against this backdrop, in this lecture, I would like to examine the 2026 Medical Fee Schedule Revision, focusing on the management of oral function. What is required of us as dental professionals is to align with the direction the Ministry of Health, Labour and Welfare is currently pursuing. I plan to explain that by riding this wave, we can benefit from the budget allocations resulting from the medical fee revision. However, the issue is that riding this wave requires a paradigm shift that fundamentally overturns the dental care practices of the past. Furthermore, how we achieve the transition to a next-generation dental care delivery system will be the watershed moment that determines the future function of medical institutions. In this lecture, I would like to share my personal insights on these key points and how we should respond to them.

Key words : The 2040 Problem, Community-Based Integrated Care System, Prevention of Condition Worsening, Oral Function Management, Rehabilitation, Nutritional Management, and Oral Care